

衛研ニュース

No.221



夏休み子ども科学教室を開催しました 🍌 関連記事を6ページに掲載しています。

も く じ

◇ 研究テーマ紹介：県民の感染症情報ニーズ調査及び情報提供ツールの試行に関する研究

◇ 苦いユウガオに要注意

◇ 水田所長のザンビア滞在記(3)：ザンビア周辺国へ、そして帰国

◇ 「夏休み子ども科学教室」を開催しました！

◇ 地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部 支部長表彰を受賞しました

◇ 研究に関する倫理審査委員会を開催しました

◇ 保健所試験検査担当職員研修会を開催しました

◇ マスコットキャラクター「Eiken(衛犬)」デビュー!!

◇ ちょっと一息～研究の合間に～

..... 石栗 優香 (2)
 伊東 慧 (3)
 水田 克巳 (4, 5)
 石栗 優香 (6)
 小川 直美 (7)
 鍵水いずみ (7)
 鍵水いずみ (8)
 生活企画部 (8)
 生活企画部 (9)

基本方針

県民の生活と健康を支えるため、
緊密な連携をもとに次のことを心がけます。

- 1 信頼される検査結果及び研究成果の提供
- 2 高い倫理観を持ち、知識、科学技術の修得育成
- 3 地域社会へ、わかりやすい保健情報の迅速な提供
- 4 公衆衛生向上のための医療、福祉との密なる連携
- 5 新たな創造へ、和をもって意欲的にたゆめぬ努力

編集発行

山形県衛生研究所

令和8年9月10日発行
 〒990-0031 山形市十日町一丁目6番6号
 Tel. (023)627-1108 生活企画部
 Fax. (023)641-7486
<https://www.eiken.yamagata.yamagata.jp>



研究テーマ紹介： 県民の感染症情報ニーズ調査及び情報提供ツールの試行に関する研究

当所の山形県感染症情報センターには、医療機関から保健所へ届け出られた感染症患者の報告が集まってきます。当センターではこれを国へ報告するとともに、週単位、あるいは月単位に集計して国の情報と併せて分析を行い、その結果を山形県感染症発生動向調査週報・月報として保健所や医療機関に還元したり、当所のウェブサイトで公表しています。これら一連の業務は、感染症法(※)に基づいた「感染症発生動向調査」として実施しています(図)。

しかし、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経て、県民の感染症に対する関心やニーズが高まった一方で、現在の週報は医療機関やマスコミによる活用が中心であり、多くの県民には十分に届いていない可能性があります。また週報は週単位で情報量が多く、何が流行しているかが直感的にわかりにくいという側面もあります。さらに、流行している感染症以外については、特徴や感染対策などの情報が得られにくいという課題もありました。そこで、現行の週報による情報還元は継続しつつ、県民が真に必要としている情報を把握し、新たな方法で感染症情報を届けることを目的として、当調査研究(令和7～8年度)に着手しました。

(※)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律



図 感染症発生動向調査の流れ

令和7年度は、過去に県庁、県の4保健所及び当センターに寄せられた感染症に関する相談や問合せを収集し、どのような人から、いつ、どのような問合せがあったのかについて集計し、県民が求めている情報の傾向を把握しました。また、Googleアナリティクスを用いて当所のウェブサイトへのアクセスデータを抽出・分析し、利用実態を把握しました。これらの結果から、県民の主体的な感染対策につながるように、一人ひとりに直接伝わる情報発信を行う必要があると考えました。

令和8年度は、県民にとって身近な情報入手手段であり、即時性や拡散性の高いSNSである「X」による情報発信を開始しました。また感染症ごとの特徴や感染対策をわかりやすく得られるよう、当所のウェブサイト内にチラシとして使用いただける「感染症別情報」を順次掲載し、コンテンツの充実を図っています。現在は主に夏に流行する感染症について掲載していますが、これから更に掲載感染症を増やしていく予定です。

県民にとってわかりやすく、より有用な情報発信を目指して、今後もX及びウェブサイトの情報を適時更新してまいりますので、ぜひご活用ください。

(生活企画部 石栗優香)

山形県感染症情報センター X
@yamagata_kansen

山形県感染症情報 X

山形県感染症情報 X

ウェブサイト 感染症別情報
https://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/kansen_disease.html

山形県感染症情報センター

手足口病に注意!

流行傾向

図 感染症発生動向調査の流れ

苦いユウガオに要注意

ユウガオは、ウリ科の植物の一つで、煮物やかんぴょうなどに使われる身近な食べ物です。形は細長いものから丸いものまであり、見た目もさまざまです。(写真)通常は爽やかな味わいで美味しいですが、まれにとっても苦いユウガオがあります。そうしたものを食べると、吐き気、下痢、腹痛などの消化器症状が出る場合があります。では、その苦みの正体は何なのでしょう。

それはククルビタシン類という苦み成分です。ククルビタシン類には多くの類縁体が存在し、ウリ科の植物全般に含まれています。また、その苦みは虫や動物から身を守るためと考えられています。

令和6年に県内で、自家栽培した苦いユウガオを食べた2名が吐き気や下痢などの症状を起こす食中毒事例がありました。当所の職員が中毒残品を一口舐めたところ、非常に強い苦みが確認されました。しかし、当時の検査項目にククルビタシン類は含まれておらず、検査が実施できなかったため、ククルビタシン類のうち、どの類縁体が症状を引き起こしたのか詳しくわかりませんでした。そこで、標準品が手に入ったククルビタシンB、E、Iの分析法を確立し、患者が食べた苦いユウガオと同じ株からとれた苦くないユウガオを分析しました。その結果、苦くないユウガオにはククルビタシンBが少量しか含まれていませんでしたが、苦いユウガオには非常に多く(苦くないユウガオの12,000倍程度)含まれていました。

これまでの分析結果から、原因物質の1つはククルビタシンBだと推定されました。さらに、同じ株でも果実ごとに含有量が大きく異なることがわかりました。また、ククルビタシンB、Eはヘタ側に多く、先端側に向かうにつれて少なくなることも確認されました。

ククルビタシン類は熱に強く、一般的な加熱調理では分解されにくいいため、加熱しても安全とは言えません。また、今回の食中毒事例では、調理済みの苦いユウガオを一口食べただけで、食中毒症状を呈しました。少量の摂取でも食中毒につながることもあるため、注意が必要です。また、食べる前にヘタ側で苦みを確認することが食中毒防止に重要です。

このようにユウガオは身近な食材である一方で、果実によっては食中毒の原因にもなります。苦みを感じた際は、絶対に食べないようにしましょう。

(理化学部 伊東慧)



写真 ユウガオの果実

【研究用に栽培しているユウガオ】



R8.5中旬



R8.6下旬



R8.8月上旬

果実が実るまであと少し、、



水田所長の

ザンビア滞在記(3):ザンビア周辺国へ、そして帰国

休日は友人たちとビクトリアの滝を訪れたり、ナショナルパークへ動物を見に行ったりしました。ビクトリアの滝へとつながる雄大なザンベジ川では巨大タイガーフィッシュ釣りも経験しました。私は写真が趣味でしたので、カバやキリン、たくさんの動物写真を撮りました。ただ、ライオンはなかなか見ることができず“水田と一緒にいくとライオンに会えない”というジンクスがあり、サファリツアーでは私は嫌われ者でした。1年近く経って、やっとライオンの母子に巡り合うことができました。私たちに驚くこともなく、母ライオンが子ライオンをあやす様子に見とれて、何枚もシャッターを切りました。

任国外旅行の制度を使って、ザンビア周辺国への1週間の旅行もさせてもらいました。まずビクトリアの滝を超えて隣国ジンバブエへ、そしてセスナ機をチャーターしてボツワナに入り、オカバンゴデルタでは水上サファリを経験しました。パピルスが生えた川面から視界が開けたとたん、目の前に象が現れ、この時とばかり必死にシャッターを切りました(当時は36枚撮りネガフィルムだったので、フィルムがなくならないか心配で心配で...)。そしてナミビアへ。ナミビアは旧ドイツ領で、首都ウィンドフックはカラフルな建物がとてもきれいでした。エアーサファリをすると砂漠の海岸線に難破船が打ち上げられ、ピンク色をしたフラミンゴの群れがとびかっている様子がよく見えました。レンタカーを借り、北部にあるエトーシャナショナルパークまで爆走しました。象やシマウマの大群に出会うことができました。ザンビアのナショナルパークよりも格段に洗練されており、ザンビアという国のワイルドさを痛感した旅でもありました。

ザンビア滞在1年目で感染症プロジェクトが終了し、メンバーは帰国となりました。その中で、私だけが次のプロジェクト立ち上げのために残りました。沼崎先生からは、一言“大丈夫だから”と言っていたが、大きな支えになりました(今では、この一言を言うことが上に立つ者の役目と考えています)。私の任務は次の1年の間に日本からの調査団を受け入れ、日本とザンビアとの間で次のプロジェクトの契約を成立する段取りをすることでした。

散歩もできず、誰とも会わない、誰とも話さない週末を幾度も過ごし、地球上で自分はひとりぼっちなんだなと思うこともしばしばでした。映画、トップガンやプリティウーマンは何度も見ました。ドリカムのCDも繰り返し聞きました。当時、日本とのやりとりは主にファックスです。ただ、7時間の時差があるので、気をつけないと真夜中にファックスをガチャガチャと送受信してしまいます。日本の新聞は数日遅れで届きました。ザンビアにいる時に地下鉄サリン事件が発生し、もしかして日本よりザンビアの方が安心?と思ったり、オリックスのイチローって誰?とわからなかったり、自民党が負けて細川内閣が誕生したのかと驚いたり、地球の裏側での体験となりました。

新しいプロジェクトが立ち上がり、1995年6月末、2年3か月の任務を終了し帰国しました。1番ははっきりしたことは、自分の英語は仕事では使い物にならないことがわかったことでした。だから今、山形にいるといえましょう。2番目に体得したことは、“自分の命は自分で守る”ことが世の中の唯一無二の掟・真実、ということです。そういう意味では日本社会は恵まれすぎているのではないのでしょうか。3番目は、日本ではありえないことをたくさん見て経験して、この世の中は何でもありなんだ、ということに身に染みて感じたことです。ですから、世の中で何が起きようと、さもありません、と思うだけで驚くことはなくなりました。このことは、即ち、人は人、自分は自分でいいという考えにつながりました。最低限の社会的マナーは守らなければなりませんが、我が道を進むことで何の問題もないということです。総じて、それなりにたくましくなって帰国することができたのではないかと考えています。私にとってザンビアの経験は貴重な勉強の機会になり、その後の人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。現在の職場では、世の中のウイルス感染症対策の進歩に若干なりとも貢献できたかと思いつきながら仕事を続けています。できれば、体が動くうちに、また異文化社会に身を置く機会を作ることができれば本望です。皆さんも異文化体験をする機会を作ってみてはいかがでしょうか(所長 水田克巳)



ザンビア思い出グラフィティ



写真1 ザンベジ川の朝日



写真2 憧れのマサイ族の彼女と



写真3 ザンビア伝統の踊り



写真4 シマウマの群れ
(ナミビアエトーシャナショナルパーク)



写真5 キリンのけんか？遊び？
(ナミビアエトーシャナショナルパーク)



写真6 ボツワナオカバンゴデルタの水上サファリでパピルス
の間から象が出現。鼻の穴までしっかり撮影できました！



写真7 やっと会えたライオンの親子



写真8 さよならザンビア（送別会）

「夏休み子ども科学教室」を開催しました！

当所では、子どもたちに科学の楽しさを身近に感じてもらうことを目的として毎年夏休み期間に「夏休み子ども科学教室」を開催しています。今年は7月29日に、県内の小学4～6年生とその保護者10組にご参加いただき、「色のふしぎを調べよう」をテーマに実施しました。はじめに所の業務について各部から説明を行いました。続いての施設内見学では理化学部の実験室に行き、実際に使用している分析装置を見たり、ほうれん草に含まれる葉緑素を取り出す操作を見学しました。普段は見ることはできない実験室の中を目を輝かせながら見学したり、研究員の話に熱心に聞く子どもたちの姿が見られました(写真1)。

科学教室のメインである実験では、ろ紙を利用した水性インクの色分離を行いました。はじめは「1色のインクにしかみえない」と言っていた子どもたちでしたが、水性インクを付けた短冊ろ紙に水をしみ込めると、

色が少しずつ分かれていくところを興味深そうに観察していました(写真2)。次に丸ろ紙を用いて、好きな色でお花のような作品作りも行い、各々丁寧に仕上げていく様子が見られました(写真3)。ろ紙への吸着のしやすさによって混ざり合った色が分かれるクロマトグラフィーの原理を学びながら、親子で楽しそうに実験に取り組む姿が印象的でした。

参加者からは「仕事の話を知ったり、装置が見れて科学に対する興味が深まった」「実験がとても楽しかった」「また参加したい」などの感想が寄せられました。今回の科学教室では衛生研究所の仕事に触れながら、身近な科学の不思議や楽しさを体感していただけたことと思います。完成した作品(写真4)や記念写真(写真5)とともに、この体験が夏休みの思い出となり、科学への興味をさらに広げるきっかけになれば幸いです。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

(生活企画部 石栗優香)



写真1 理化学部の見学



写真3 丸ろ紙のオリジナル作品作り



写真2 短冊ろ紙の色分離を観察



写真4 完成した作品



写真5 記念写真撮影

地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部 支部長表彰を受賞しました

このたび、令和8年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部長表彰を受賞いたしました。本来は令和8年6月に秋田県で開催予定であった支部総会において表彰される予定でしたが、当日に発生した地震の影響により総会および表彰行事は中止となりました。この場をお借りして受賞のご報告をさせていただきます。

私は平成27年に衛生研究所へ異動し、生活企画部および微生物部において感染症対策に関わる業務に携わってきました。生活企画部では感染症情報センター業務や感染症媒介蚊の調査研究を担当し、地域における感染症の実態把握に取り組んできました。令和5年度からは微生物部に所属し、主にウイルス検査業務を担当しています。山形県衛生研究所が重視しているウイルス分離培養に携わるとともに、CPE(細胞変性効果)判定のトレーニングツールを作成し、技術継承や人材育成に取り組んできました。また、ARI(急性呼吸器感染症)サーベイランスの開始に伴う業務量の増加に対応するため、検体の受付から検査データの管理、成績書作成までを一元管理できるウイルス検査業務管理システムを構築し、業務の効率化に取り組んできました。

振り返ると、情報、フィールド、検査と、それぞれ異なる立場で感染症対策に関わってきましたが、「その時に必要とされることに応える」という姿勢で取り組んできたことが、今回の受賞につながったのではないかと感じています。

今回の受賞は、私一人の力によるものではありません。これまでご指導いただいた先輩方や、日々ともに業務にあたっている同僚の皆様の支えがあってこそこの受賞であり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後も、自分にできることを一つずつ積み重ねながら、感染症対策を支える地方衛生研究所の役割に貢献していきたいと思います。

(微生物部 小川直美)



(立派な賞状と記念品をいただきました)

研究に関する倫理審査委員会を開催しました

当所では、人を対象とする医学系研究について、倫理的及び科学的観点から調査審議を行うため、山形県衛生研究所倫理審査委員会を設置しています。令和8年度第1回の委員会を6月2日に開催し、新規課題2題と変更課題14題(うち13題は報告案件)について委員の方から審査、御意見をいただき、すべての研究課題が承認されました。

研究にご協力いただいている県民の方に感謝するとともに、今後とも倫理に十分配慮して研究を進めてまいります。

なお、承認課題と委員会の議事録は、当所のホームページや、厚生労働省の研究倫理審査委員会報告システムでご覧いただけます。(生活企画部 鍵水いずみ)



写真 委員会での審査の様子

保健所試験検査担当職員研修会を開催しました

当所では毎年、保健所の試験検査担当職員を対象に、必要な知識・技術を習得してもらう研修会を行っています。

令和8年度は6月10日からの3日間、理化学コース2名の方が分析装置の原理やメンテナンス等、微生物コース4名の方が感染症法に含まれる重要な病原体(チフス菌等)の検査法の研修を行いました。また2日目には、各保健所の検査課・室とオンラインでつないで、研修参加者以外の職員も加わった検討会を行い、器材に関する情報交換や新しい検査法の意見交換が行われました。

参加者からは、新任の方は「基本操作の確認と疑問点の解消ができた」、そしてベテランの方も「技術習得の良い機会となった」との感想が寄せられ、有意義な研修になったことが伺えました。

(生活企画部 鍵水いずみ)



写真 研修の様子

マスコットキャラクター 「Eiken(衛犬)」デビュー!!

当所に、公式マスコットキャラクター**Eiken(衛犬)**が誕生しました! 当所の略称である衛研(えいけん)の「研」と、「犬(けん)」を掛け合わせて名付けられた、新しいサポーターです。



モデルは探求心旺盛な茶色の柴犬の子犬で、小さな体に白衣をまとったちびっこ研究員スタイルがトレードマーク。チャームポイントは好奇心に満ちた、キラキラした瞳で、山形の美味しいものが大好きな食いしん坊です。その愛らしい姿は、先日開催された夏休み子ども科学教室でも大好評でした。

今後は当所の情報発信を手助けする、頼もしいサポーターとして登場する予定です。ちびっこ研究員「Eiken」のこれからの活躍に、ぜひご期待ください!

(生活企画部)



衛生研究所の論文・学会発表等

論文

- 1) 野中 基弘, 遠藤 貴之, 菅井 透, 瀬戸 順次, 大貫 典子. と畜場搬入馬及び牛における志賀毒素産生性大腸菌保菌状況調査. 日本獣医師会雑誌. 2026;79:158-161.
- 2) Kosuke Ota, Takuo Sanada, Hiroshi Takahashi, Satoshi Numano, Yoko Aoki: Species identification and tetrodotoxin distribution in natural hybrid pufferfish collected from Japanese coastal waters. Toxicon, 281,109189 (2026). DOI: 10.1016/j.toxicon.2026.109189

学会

- 1) 水田克巳, 的場洋平, 小川直美, 高橋智子, 駒林賢一, 池田辰也, 松寄葉子: 1976~2022年の山形県におけるコロナウイルスNL63の血清疫学, 第78回日本細菌学会東北支部総会・学術集会, 2026年8月20-21日, 於仙台市
- 2) 渡辺知也, 平塚達也, 篠原秀幸, 中島克則: ツキヨタケ栽培における菌床培養期間の検討, 日本きのこ学会第29回大会, 2026年8月31日-9月1日, 於新潟市

その他講演

- 1) 瀬戸順次: 地方公務員獣医師の魅力, 日本大学生物資源科学部総合獣医学演習A, 2026年6月29日, 於藤沢市
- 2) 瀬戸順次, 和田崇之, 野本竜平, 坂上亜希恵, 淀谷雄亮, 安井善宏, 川瀬遵, 成田翼, 河原隆二, 平塚貴大, 水田克巳, 吉村和久, 貞升健志: 地方衛生研究所における病原体ゲノムデータ解析全国研修会の成果と展望, 第6回地衛研現場の会, 2026年7月14日, 於山口市
- 3) 瀬戸順次, 磯崎友美, 池田辰也, 水田克巳: 山形県におけるゲノム解析を組み入れた結核分子疫学調査, 第46回衛生微生物技術協議会研究会, 2026年7月15-16日, 於山口市
- 4) 瀬戸順次: 山形県におけるゲノム解析を組み入れた結核分子疫学調査, 令和8年度地域保健総合推進事業 第1回感染症対策部会, 2026年8月18日, オンライン
- 5) 瀬戸順次: VNTR分析・ゲノム解析を活用した結核分子疫学調査, 令和8年度結核予防技術者地区別講習会(東北地区), 2026年8月27-28日, 於山形市

ちょっと一息
～研究の合間に～

ある日の衛研①

6月のある日、窓の外に巨大な「チンアナゴ」の群れが出現・・・

衛研の建物は老朽化が目立ちますが、それ以上に電気設備の老朽化が危険視されていました。

この度、受電設備が更新されることになり、このチンアナゴたちはケーブルの保護管。まもなくこの上に新しい受電設備ができる予定です。

ある日の衛研②

8月のある日、トラックに乗ってキュービクルがやってきました。チンアナゴ達は短く切りそろえられ、その中にケーブルを通すため、作業の方3～4人が綱引きよろしく「よ～いしょ!」の掛け声とともに1本1本ケーブルを引っ張り出して接続完了! まもなく受電開始です。(生活企画部)

